

## 麻しんワクチンの補足的接種について

## 1. 対象年齢

## (1) 考え方

- ① わが国では、2007年に10代後半をピークとした10代、20代を中心とする麻しん流行があり、ワクチン未接種・未罹患者に加えて、ワクチン1回接種世代が多く含まれていた。今までワクチンを定期接種として1回しか接種していない世代は主に8歳から29歳の者である。
- ② 今回の補足的接種は、今まで麻しんワクチンを1回しか接種していない世代のうち、感受性者同士が集まる機会を有する大学生までを対象とし、2012年までに大学生相当の年齢までの世代が麻しんワクチンの2回目の接種を受けることが出来るようにしてはどうか。

## (2) 対象年齢案

- ① 麻しんワクチンの補足的接種の対象年齢を現在の8歳から17歳まで(2008年度で9歳から18歳)とする
- ② 対象年齢以外の者は任意接種であるが、麻しんワクチンの接種を推奨する

## 2. 対象期間

## (1) 考え方

対象期間を設定するにあたり、以下の3点を勘案する必要があるのではないか。

- ① 2012年までに我が国を麻しん排除状態にすることを原則とする
- ② 必要なワクチン量を現在認可されているワクチンの増量で対応する
- ③ 実施主体である市町村が必要となる業務及び予算の増加分を考慮する

## (2) 対象期間案(対象年齢は2008年時)

- 案1：3年間で接種を行う
- 案2：5年間で接種を行う
- 案3：7年間で接種を行う

年齢層(歳) (2008年時)	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
案1(接種期間3年間の接種年次の接種時の年齢)	③ ←	③ ←	② ←	① ←	③ ←	② ←	① ←	③ ←	② ←	① ←
接種時の年齢	11	12	12	12	15	15	15	18	18	18
案2(接種期間5年間の接種年次の接種時の年齢)	⑤ ←	④ ←	③ ←	② ←	① ←	⑤ ←	④ ←	③ ←	② ←	① ←
接種時の年齢	13	13	13	13	13	18	18	18	18	18
案3(接種期間7年間の接種年次の接種時の年齢)	⑦ ←	⑥ ←	⑤ ←	⑦ ←	⑥ ←	⑤ ←	④ ←	③ ←	② ←	① ←
接種時の年齢	15	15	15	18	18	18	18	18	18	18

### 3. 使用ワクチン

#### (1) 考え方

2006年度感染症流行予測調査に基づく年代別の風疹 HI 抗体陰性率によると、今回の補足的接種の対象年齢に含まれる9歳から16歳の男女において、15%を超える高い抗体陰性率の年代が存在する。風疹流行に伴う先天性風疹症候群の発生を予防するために、麻しん対策と同時に風疹対策も実施する必要があるのではないか。

#### (2) 対策案

麻しん対策と同時に風疹対策を行うため、原則として麻しん風疹混合ワクチンを用いることとする。

### 4. ワクチンの接種スケジュール

(1) 考え方

ワクチンの接種スケジュールを設定するにあたり、以下の3点を勘案する必要があるのではないか。

- ① 麻しんは春先に流行しやすいこと
- ② 新年度で新たな集団となった直後に、その集団中の感受性者対策を実施しておく必要があること
- ③ 短期間に集中したワクチン接種体制をとることが望ましいこと

(2) 接種スケジュール案

接種対象学年に対する接種可能期間を各年度(4月1日から3月31日まで)とし、その1年間の中でも年度当初(4月から6月の3ヶ月間)を推奨される接種期間とする。

5. 必要なワクチンの確保

厚生労働省は、補足接種を含む定期予防接種に必要なワクチン及び試薬類の必要量の生産を製造メーカーに依頼する。